

そよかせ

毎日新聞西部社会事業団だより

第120号 2024年11月

発行所 〒802-8651 北九州市小倉北区紺屋町13-1

公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団

発行人 尾崎 昌則

TEL 093(551)6675 FAX 093(541)8009

E-Mail: s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp

http://www.mainichiseibu-shakaijigyo.biz/



2団体1個人を表彰

福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する第54回毎日社会福祉顕彰（毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援）に、全国から推薦された19件から2団体と1個人が選ばれ、10月31日に東京都千代田区の如水会館で贈呈式があった。

第54回毎日社会福祉顕彰

今回は、団体から特定非営利活動法人JFC（ネットワーク）（東京都新宿区）と社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房（滋賀県甲賀市）、個人から酒井勇幸さん（社会福祉法人いなりやま福祉会常務理事・長野県千曲市）が選ばれた。贈呈式で、前田浩智・東京社会事業団理事長（毎日新聞社主筆）から賞牌と賞金（各100万円）が贈られた。

それぞれの顕彰理由などは次の通り。

◆特定非営利活動法人JFCネットワーク

海外出身者と日本人との間に生まれた子どもたちの認知など人権を守る活動をしている。

いまでは社会問題や国際問題として知られるようになったが、国内で専門的に支援に乗り出した先駆けがJFCネットワークで、さまざまな困難が伴う問題に、弁護士などと連携し、認知や養育費の請求、子どもの国籍を取得する活動などを行っている。

伊藤里枝子事務局長（写真Ⅱ前列左から2人目）は「社会的にスポットが当たらない問題で、子どもたちをサポートしている活動を評価していただいた」と受賞を喜んだ。

◆酒井勇幸さん

酒井さん（写真Ⅱ前列右から2人目）は視力に先天的な障害を抱え、盲学校卒業後、地元の福祉施設に勤務しながら、仲間を集めて「いなりやま福祉会」を立ち上げた。障がい者が遠方の施設に行かなくてもよいように千曲市にさまざまな施設や事業の整備に取り組み、市民による後援会組織もできた。障がい者が働く喜びを知り、地元で生き生きとした生活が送れるようになり、地方福祉のモデルケースとして知られるようになった。

酒井さんは1960年代から障害を持つ子どもたちに接していたことなどを振り返り「伝統ある賞をいただき、身に余る光栄だ」と語った。

◆社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房

やまなみ工房は、障がい者が自由な発想で創作する「アール・ブリュット」（生の芸術）などで知られる。

共同作業所として開設された工房には、美術を専門的に学んだ

スタッフはおらず、「作品づくりで彼らがしたいことを楽しくしてもらおう」ことを大切にしている。

いまでは知的障がい者や精神疾患を抱える人々が、自由な発想で描く独創的な芸術作品が国内外で高い評価を得ている。

贈呈式では海外出張中の山下完和施設長のメッセージを森嶋克己理事長（写真Ⅱ前列右端）が読み上げ、「社会貢献という形でご恩返しができるよう、日々精進してまいります」と今後の活躍を誓った。

第54回 毎日社会福祉顕彰 贈呈式



【毎日福祉顕彰とは】

毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団の主催で、毎年秋に社会福祉に優れた業績のあった個人や団体を表彰しています。

表彰の対象は、社会福祉について学術研究的な成果や、技術的に顕著な効果をあげた▽福祉実務や施設の設備改善などに独創的な成果をあげた▽長年、国際福祉、地域福祉の奉仕活動を通じてきた▽社会福祉施設などに30年以上、その使命に献身した▽新しい分野を開き、時代のニーズに応える福祉活動をしている個人など。

自薦はできません。第三者の客観的な視点で優れた個人・団体を推薦していただいています。外部の有識者や研究者を含む審査委員会受賞者を選んでいます。例年、9月に毎日新聞紙上で受賞者を発表し、10月に贈呈式を開き賞牌と100万円（1件）を贈っています。毎年、3月上旬の毎日新聞紙上に募集告知が掲載されます。

公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団

「一本の指のうずきは、同時に、全身の苦痛である。社会の一隅に、生活に疲れ、病に苦しむものの存することは、すなわち、社会全体の悩みでなければならない」。本事業団は、1911（明治 44）年に母体である大阪毎日新聞慈善団を発足させた本山彦一第 5 代社長の人間尊重の哲学を根本精神として引き継ぎ、運営しています。

現在、毎日新聞社は東京・大阪・西部の 3 本社に独立した公益財団法人の社会事業団を設立し、健康で快適に暮せる活力ある福祉社会を形成するため、社会事業（下記ご参照）を積極的に展開しています。新聞社が社会福祉事業を行うために設けた独立の法人組織としては、わが国で最も古い歴史を持っています。

【社会福祉寄金】

社会福祉寄金は「社会福祉のため、恵まれない人のために」幅広い目的で寄託していただくものです。▽児童福祉施設の子どもたちに入学・卒業を祝って記念品を毎年贈り、励ましています。▽スポーツする機会になかなか恵まれない障害者のため、水泳大会やボウリング大会などへの支援を積極的に続けています。▽子どもが自宅から遠く離れた病院に長期入院する際、病院近くにご家族が安価で安心して利用できる宿泊施設などを提供する団体を支援し、療育に苦しむ母親たちを勇気づけています。▽その他、高齢者福祉などへ助成しています。

【災害被災者救援】

東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨、能登半島地震など大災害発生と同時に、多くの方々から善意の見舞金が寄せられます。当事業団ではこれらを取りまとめ、被災地に送っています。現在は、能登地震救援金を受け付けています。



毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん

【毎日希望奨学金】

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支援するため、毎日新聞社と 2011 年度に創設。22 年度までに 5 億 7708 万円を延べ 2399 人に給付しました。



【小児がん征圧募金】

毎年 2 ～ 3 千人が発症するといわれる小児がん。毎日新聞社と協力し 1996 年から小児がん征圧キャンペーンを継続。子どもたちや家族を励ましています。



【母の日・父の日募金】

「プレゼントをしたい親がもういない。プレゼントしたつもりで、そのお金を遺児たちへ」との趣旨で、2005 年から始めました。現在は、親がいても恵まれない子どもたちが急増している現状から、遺児に限らず、社会的養護を必要とする子どもたちに支援の対象を広げています。

【海外救援金】

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞社と取り組む海外飢餓・難民救援キャンペーン。募金はウクライナなど各地で支援活動をしている国連救援機関や非政府組織（NGO）などに贈呈しています。